MADE IN HAMAMATSUの楽器

輸送用機器をはじめ、さまざまな製造業が集積する浜松市。高度な技術によるモノづくりが根付く同市を象徴するモノづくりの一つが楽器産業だ。楽器作りには通常の工業製品にはない独自のノウハウが必要とされる。製品の完成度に〝音色〟という要素が加わるため、クラフトマンの感性が極めて重要となる。良い音、良い楽器の背景には、長年築き上げてきた〝歴史〟がある。より良い音を求めるクラフトマンの情熱と最新のテクノロジーにより、「MADE IN HAMAMATSUの楽器」はさらに歴史を積み重ねていく。

理想のバイオリンを追求

ヤマハはアコースティックバイオリン「Artida」シリーズの最新モデルとして、イタリアの歴史的名工の作品をベースに、最高の製造技術と素材を追求した新製品「YVN500S」を6月に発売する。

「Artida」は、これまで培ってきた設計技術、素材選定、製作、塗装、調整などをさらに高度なものへと発展させたシリーズで、今回、発売する「YVN500S」は、同シリーズの新しいフラグシップモデルとなる。

長年培ってきた木工技術に加え、同社独自の木材改質技術である「A.R.E.（Acoustic Resonance Enhancement）」技術を施した木材を素材の一部に使用。これは製材後、長期間を経た木材の経年変化と同様の変化を、短期間で生みだす技術で、バイオリンの表板、裏板、横板などに採用することで、長年使い込まれたバイオリンを想い起こさせるような深みのある音の伸びや響きを実現する。

また、オールドバイオリンのような〝年月を経た熟成〟を表現した「アンティークフィニッシュ」を採用し、アンティーク調の外観が、落ち着いた味わいと風合いを醸し出している。表面にはニスの塗膜の構造を変化させる「紫外線照射」技術を採用し、ニスの特性変化によって音質性能を向上させる仕様となっている。

100年以上に及ぶ木製楽器生産の基礎技術・技能に加え、1990年代から10年以上に及ぶアコースティックバイオリンの製造技術を結集。伝統のクラフトマンシップや、3次元CADによる高精度モデリング、有限要素法を用いた振動解析など、最新の楽器技術を融合させ、「理想のバイオリン」を追求したモデルとなっている。

国内外のアマチュアオーケストラ奏者をはじめ、音大生やプロ演奏家などクオリティの高いアコースティックバイオリンを求める層に向けて提案していく考えだ。

ヤマハの新製品「YVN500S」

最新技術で名機を復刻

最新のテクノロジーによる電子楽器も進化を続けている。ローランド・グループのBOSSは、ギター・エフェクターのシリーズ「BOSSコンパクト・ペダル・シリーズ」に新製品「オーバードライブOD―1X」と「ディストーションDS―1X」を発表した。同シリーズはギタリストの足元に並べてエレキギターの音に効果を加え、楽曲にさまざまな表情を与える機器。BOSSは老舗ブランドとして中高年から若者まで幅広いユーザー層に支持を得ており、同シリーズの累計販売台数は1300万台を超えている。

今回発表した2機種は、同シリーズの歪み系エフェクターの名機として未だに高い人気を誇る初代機「OD―1」（77年発売、現在は生産終了）、2号機「DS―1」（78年発売、現在も販売継続）の型番を継承している。単なる復刻版ではなく、同社の最新技術MDP（Multi―Dimensional Processing）を投入し、従来にはない特徴を持つエフェクターとして、全く新しいモデルに生まれ変わった。「OD―1X」は太く芯がありながらも、低音域から高音域までクリアな歪みサウンドを実現、一方の「DS―1X」は激しく歪ませても明瞭な低音と、太く滑らかな中高音を両立した強力なサウンドを実現させている。

また35年以上に渡る「コンパクト・ペダル・シリーズ」の開発過程において品質・耐久性の向上を重ね、BOSSは2014年4月より同シリーズの保証期間を従来の1年から5年へ拡張することを発表した。同社では高品位なサウンドを安心して楽しめるように、今後も品質とサービスを充実させていく意向だ。

ローランド・グループ「BOSS」のギターエフェクター「OD-1X」（左）と「DS-1X」（右）

世界中のさまざまな地域の楽器を見ることができる浜松市楽器博物館

まち全体で音楽に親しむ

浜松市は〝楽器のまち〟として、地域全体で年間を通してさまざまな音楽関係のイベントが開かれている。その中でも「浜松国際ピアノコンクール」や「静岡国際オペラコンクール」「浜松世界青少年合唱祭」「浜松吹奏楽大会」は、世界的・全国的なコンクールで、楽器・音楽のまちである浜松を代表するイベントだ。また、こうした本格的な音楽だけではなく、「プロムナードコンサート」や「ハママツ・ジャズ・ウィーク」「やらまいかミュージックフェスティバルin浜松」など、市民が参加できるイベントも数多く行われている。プロからアマチュアまで、さまざまな形で音楽にふれあい、楽しむことができる。

加えて、こうした活動の拠点で、本格的なオペラやコンサートなどにも対応できるアクトシティ浜松の大・中ホールや、世界の楽器1300点を常設展示している浜松市楽器博物館など、本格的な設備から市民が気軽に音楽を親しめる環境までが整備されている。